
Angel Beats! SIDE 『I』

クラウン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Angel Beats! SIDE『I』

【Zマーク】

Z0543Z

【作者名】

クラウン

【あらすじ】

死んでしまい、記憶がなくなってしまった少年 真田。

彼は、死後の世界で神に抗い、歌う一人の少女に出会った。

第一話 入隊（前書き）

A B ! の一次創作です。

暖かい目で見てほしいです。

第一話 入隊

「……………ビード？」

満月が輝き、星が夜空を埋め尽くしているきれいな夜、俺は田を覚ました。

辺りを見回す。

どうやら学校のようだが、いつも見慣れた学校ではなく、着ている制服もデザインが全く違う。

「どうなつてんだ？」

そう言ことながら立ち上ると……

「田が覚めた？」

不意に声をかけられた。

声のした方を向くと、紫の短髪と頭に結んだリボンが特徴の女の子がいた。

「あんた……誰？」

「……………とを聞くとまあ自分がいるべきじゃない？」

腕組みをして立ちはだかっていたその女の子は、強気な姿勢で俺の質問に答えた。

「ああ、やうだな……俺の名前は……えっと……わ、真田っ。」

名前を言おうとしたが、なぜか名字しか思い出せなかつた。

「いや、そこ[疑問]系にされても困るんだけど……」

「仕方ないだろ。わかんないんだから……。で、あんたは？」

そう言って、女の子に改めて質問した。

「私はゆり。……そつか、記憶がないのね……まあ、大丈夫よ」

「初対面の人には大丈夫だと言われても何一つ安心できないんだけど……」

「うるさい！ 文句言わない！……オホン！……えー……真田君！
今すぐ『死んでたまるか戦線』に入隊しなさい！」

ゆつはその指を突きつけて言った。

第一話 入隊（後書き）

第一話でした。

これからなるべく早いペースで書いていけたらいいなと思っています。

感想、コメント等お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0543z/>

Angel Beats! SIDE 『I』

2011年12月1日23時46分発行